

辺境の地にあった勢力が、「中央部進出・統治、国内統一、広大な地域統一・支配」した例

- (1) 古代オリエントにて、北方辺境アナトリアにいたヒッタイト人が中央部のシリア・メソポタミアを制圧し、エジプト新王国も攻撃、オリエント統一の素地を形成（前16世紀）
 - (2) 古代ギリシアにて、北方辺境の王国であったマケドニアが全ギリシアを統一（前334）。
 - (3) 中国戦国時代にて、西方辺境の諸侯国であった秦が中国を統一（前221）。
 - (4) 古代地中海にて、辺境の都市国家であったローマが、当時文明の中心地であったエジプト・ギリシアを含む全地中海世界を統一（前31）。
 - (5) ヨーロッパ中世初頭にて、北方辺境の地にいたゲルマン民族が西ローマ帝国を滅ぼし、ドイツ・フランス・イタリアの母体となったフランク王国を建てる（481）。
 - (6) 辺境アラビア半島西岸中部にあったアラビア人が、イベリア半島の西ゴート王国滅亡をもってヨーロッパ・アフリカ・アジア3大陸にまたがるイスラム帝国を樹立（711）。
 - (7) 辺境外モンゴルのオノン・ケルレン川のほとりにあったモンゴル民族の一派が、南宋滅亡をもってユーラシア大陸の大部分を統一（1279）。
 - (8) 辺境の藩であった薩長土肥が江戸幕府を倒して明治新国家を建てる（1868）。
 - (9) 中世のドイツ辺境にあって文字通りブランデンブルク辺境伯と呼ばれた勢力が、1000年間分裂状態にあったドイツをついに統一（1871）。
 - (10) 近代初頭には辺境新大陸の国家であったアメリカが、ソ連崩壊に伴い「アメリカ極体制」を樹立した（20世紀末）。
- (*) なお、源頼朝・徳川家康のように、当時辺境であった地（鎌倉・江戸）に政治拠点（幕府）を置く例もあった。
- (*) 人の居住・活動が拡大してきて、部族間・民族間の抗争、地域間・小国家間の抗争が開始・激化したり、これまでの地域世界統一がくずれて分裂・混乱がもたらされたとき、支配・統治を受け入れる（妥当な貢納をし労役に従う）ので、かわりに治安・平和を維持して安心して居住・活動できるようにしてほしいという人々の願いを背景に、辺境の勢力が中央部に進出して、しかるべき範囲の地域世界を統一していくというのは、歴史の法則のようです。ただし、上の(10)については、この法則にあてはまりません。